

2024年 1月 4日

## 2024年 年頭のご挨拶

医療法人 南河内診療所  
理事長 荒井博義

新年明けましておめでとうございます。 職員各位におかれましては、新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返り、まず、職員各位の奮闘努力を賞賛させていただきます。  
一昨年は当法人最悪の経営成績で、危機を脱出するために最低限必要な業績目標を設定し、各部署にお示したところですが、簡単に達成できる目標でもないと考えていました。 任された職員各位にはさぞかし重荷になったことと思います。 にもかかわらず、診療所、入所施設では期間半ばで、そして、今一步のところまで苦しんでいた通所施設も12月には目標値を達成して頂きました。 当初、無理を承知のお願いただけに感慨深く、感謝するばかりです。

しかしながら、コロナ禍やウクライナへの侵略戦争に端を発し、昨年はパレスチナへの軍事侵攻による中東情勢の悪化も加わり、食料とエネルギー価格が大幅に上昇し、市民生活を圧迫し、医療・介護施設にも深刻な影響を及ぼしています。 当法人の経営においても厳しい状況が続いており、決して余裕が生まれる1年とはなりませんでした。

それ故、昨年の目標値を最低限維持することが求められ、職員各位には重ねてご苦勞をお掛け致しますが、さらに昨年を上回る業績目標を各部署内で設定し、それを掲げて取り組んで頂きたい、お願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上の位置づけが2類相当から5類に移行され、「ポストコロナ元年」が幕を開け、社会的な制限はずいぶん軽減されました。 感染力は依然として強いものの、重症化率は幸いにも低減したことからインフルエンザと同等の対応に移行し、気分的に楽にはなりましたが、外来では昨年12月からコロナ感染者が増加しており、まだまだコロナは終わった訳ではありません。 また、コロナウイルス治療薬は併用禁忌が多く、高額でもあることから老人保健施設で処方することが困難で、インフルエンザより厄介であることに変わりはありません。

既に年末からインフルエンザの流行が施設内にも波及しています。 今さらではありますが、職員一人一人の感染予防と施設内感染拡大への備えが重要です。 気を引き締めて対処いただきたく、宜しくお願い致します。

ところで、尼寺や道の駅で地域では様々な行事が再開されましたが、「お達者納涼祭」は如何でしょうか？ 老健施設を開設した年に、利用者のご家族、地域の皆さん、そして職員自身の三者それぞれが楽しめる場を目指して始めました。 結果、一定の地域からの評価が得られつつ、とりわけ職員各人が企画・準備・運営を通じて連帯感や達成感を愉しむ場になっていたように思います。

当施設はコロナ以前の状態にすっかり戻ったわけではありませんが、施設内に止まることなく、地域交流活動を再開すべき時期に来ていると思っています。 しかし、その一方で通所施設が新築されたり、駐車場にフェンスが張られるなど、があります。

三者が楽しめるイベントであれば良いと思っています。 盆踊りにこだわらず、職員各位からの新たな発想による発議を期待しているところです。

最後に、職員各位におかれましては、今後とも当法人運営につき変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

本年が皆様のご家族にとって佳き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。